

## 第 3 回策定委員会の主な意見

( 議論の方向 )

主に資料 6 - 4 融合案の資料をたたき、基本目標を固めていく。

## 【今後 10 年を見据えた杉並が目指す教育について】

- ・ 学びあう教育。支えあう、伝え合う、高めあうために、お互いに支えるから学んでいくという考え方はどうか。
- ・ 学びあい、大人も含めたメッセージでもある。また、子ども同士でも、子どもと地域との間でも言える、広い領域をカバーするメッセージである。
- ・ 共生が感じられない。地域ぐるみという表現は、学校・家庭・地域とした方が分かりやすい。共に支えるより、「共に生きる」のほうが力強いと思う。
- ・ 1996 年のユネスコの報告「学びの 4 つの柱」 知ること、 為すこと、 共に生きること、 人間として生きること。従来の学校は、せいぜい まで。
- ・ 「今後 10 年を見据えた杉並が目指す教育」の部分は末尾の「杉並の教育」をとって考えた方が発想が広がる。
- ・ 一番上は「共に育ち響きあう」。拡散型でイメージが広がるような言葉がよいのではないか。
- ・ 「杉並の教育」をつけたほうがよいと思う。都との教育の違いが出せる。
- ・ 10 年間のゆとり教育の良し悪しを入れ込みたい。ゆとりは大切で、ゆとりの中から創造ができる。
- ・ ゆとり教育は、マスコミ用語であり、二項対立型の議論になる可能性がある。
- ・ 「生きる力」とは何か、というイメージを杉並区としての表現で考えれば良いのではないか。
- ・ 「生きる力」は、社会との接続であり、まさにキャリア教育である。学校がどう意識して育てていくかが重要である。
- ・ 学びあう、支えあう、育てあうといった具体的なイメージが見えてくる言葉の方がいい。
- ・ 前回までのキーワード、ベースは入っている。新しい言葉を使いたいが、スタンダードにならざるをえない。しかし、前の 10 年とは違うというものを出したい。
- ・ 「共に育ち、響き合おう」、「助け合おう」というように、呼びかけ風になると視野が広がる気がする。
- ・ 「地域」という言葉は外せない。「いいまちはいい学校をつくる」をベースにこれまでやってきた。これからもこれをベースに知の循環型社会を目指していく。
- ・ 今後 10 年「杉並人」を創っていく、というのはどうだろうか。
- ・ まちと学校と人。いいまちはいい学校を、いい学校がいい人を、いい人がいるからいいまち、という循環なのではないか。
- ・ 「いいまちは～」というキャッチフレーズは、変えなくてもよい。これからも変えずに残していきたい。
- ・ 杉並の施策は、全てコミュニティがらみでもある。

- ・新しい言葉は風当たりも強いが、「杉並人」という言葉はすっきりするかもしれない。
- ・学びあい支えあい育ち教育 市民協働(パートナーシップ)でつくるコミュニティと教育 という感じだろうか。
- ・当事者意識という言葉が一番のキーワードなので、それが見えるかどうかだと思う。

### 【目指すべき(育てたい)人間像について】

- ・「自ら」という言葉は入れたい。教育では、「自ら」を外してはいけない。
- ・人との関わり、地域貢献も外せないのではないか。
- ・1つは自分の内側に向けて発するもので、1つは外との関わりというものでよいと思う。
- ・「自ら判断していく力」を育てたい力に入れたい。
- ・体力、食、健康と3つそろった体の力が必要である。
- ・育てたい力の2番, 3番, 4番は重要な視点である。
- ・「感性」という言葉を入れたい。感性・情緒を抜きにしてインクルーシブな社会はない。感性を入れると幅が広がる。
- ・共感を持つというのは非常に大事。
- ・1番~3番は発達障害があっても全て当てはまる。
- ・自分の子どもがこうなって欲しいと思うような言葉を入れたい。
- ・「たくましい」「生きる力」を入れたい。
- ・感性はオリジナリティがある。共感とは違う。
- ・感性は「感じる力」で、思いやりにもつながる。美しいものを美しいと感じる力でもある。
- ・思考・判断する力や、ルールを守る規範意識の視点も入れたい。
- ・規範意識といわれると一般的には理解しにくいかもしれない。自ら判断する力なら理解できる。自分で判断して正しいことを選択していく力は大切である。
- ・4番の継承・循環という意味は、助けられ育てられた子どもが、成長して地域に戻り他を助ける力になる、ということ。次の世代に伝えていく、学びの成果と地域への還元は大事である。
- ・中学生レスキューのように、子どもは支えられるだけでなく、支えることもできる。10年後に地域に戻ってきて、地域の役に立つ、という「地域に還元する」という感じがいい。
- ・「共に創り、継承していく杉並の教育」を入れたらどうか。サブテーマで「学校・家庭・地域が学び育てる杉並の教育」というのもある。
- ・継承は少し固いイメージであり、循環というとシステム的である。
- ・「共に創る」は「何を」がはっきりしないほうが、イメージが広がってよいのではないか。
- ・共創は競争があってこそ生きる言葉である。
- ・「響」を使ってみてはどうか。
- ・共育が発展したのが響育。わりと使われているので、オリジナリティのある言葉の方がよいのではないか。

- ・ 目指す人間像の2つはこのままでいきたい。育てたい力の1番～3番も言葉づかいは別として残す。4番目を上にもっていくか、下の基本的な視点にもっていくかである。
- ・ 自律し、困難を切り崩して進んでいく力のメッセージが欲しい。
- ・ 立ちはだかる壁を切り拓くたくましい人になって欲しい。そのたくましい力は、学校だけでつくるものではなく親も一緒につくっていくものである。
- ・ 共創は「共想」でもよいのではないか。共に想い合う、思いやりのある子に育てたい。響きあい想いやる「響想」というのも考えられる。
- ・ 「骨太の教育」とすると全てが入ってくると思う。
- ・ 3番の「体の力」だが、強く生き抜く精神力も入れたい。「心と体の力」というべきだろうか。
- ・ 言語活動は知的活動、感性、コミュニケーションのベースでもあるので、言語活動の充実についても触れたい。
- ・ 自分で思っていることを表現するには、言語力が必要である。自分で判断する力と同時に、その結果を表現する力も大切である。そのためには感性が関わってくる。
- ・ 住宅都市杉並ならではの10年間を強調するものを出していくべきではないか。
- ・ 都会の住宅都市という点からいえば、異質性との遭遇、違ったことへの対応力というのがポイントになる。
- ・ 育てたい人間像は、教育を受ける側だけではなく、地域コミュニティも含めて考えればいい。